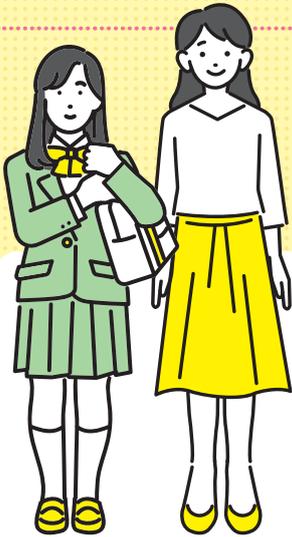


にん よう せい

妊孕性温存療法とは？

がんになってもパパママに



妊娠する力、させる力を妊孕性と言います。妊孕性温存療法は、小児から30歳代のがん患者さんが将来子どもを授かる可能性を残すために、がん治療の前に受精卵や卵子、精子の凍結保存などを行い妊孕性を温存する療法です。



参加無料

2025年 2/1 (土)

1部 13:00～ 2部 14:30～

1部 2部 の両方を受講できます

開催会場

京成ホテルミラマーレ8階 オーキッド
〒260-0014 千葉市中央区本千葉町15-1

定員

70人

開催方式

WEB同時配信
※一部後日配信予定

対象者

県民、がん患者、家族、医療者等

《申し込み》QRコード

Formsリンクへ移動します



第1部

講座プログラム

第2部

千葉県生殖医療クリニックにおける
妊孕性温存治療の現状

千葉県がん・生殖医療
相談支援センターの紹介

妊孕性温存療法における
意思決定支援

がん治療と妊娠・出産
～がんになっても母になりたい～

がんと妊孕性
～25歳でがんになって～

AYA世代のがん
～ネットワークで支えるサバイバーシップ～

がん治療後の生殖医療

千葉県小児・AYA世代のがん患者等の
妊孕性温存療法研究促進事業について

主催



千葉県がん・生殖医療
ネットワーク



令和6年度県民公開講座（千葉県委託事業）

講座プログラム

1部 2部の両方を受講できます

第1部

がん治療と妊娠・出産

～がんになっても母になりたい～

31歳のとき、結婚式の2週間前に乳がんの告知を受けました。「がんになっても母になりたい」、その想いで治療を続けてきました。当日は、がんの告知を受けてから、治療後に妊娠・出産するまでの自身の体験や、若年性乳がん患者支援団体を運営する立場から見える今後のがん・生殖医療に対する期待についてお話させていただきます。



若年性乳がんサポートコミュニティ
PinkRing代表 御船美絵 氏



NPO法人がんノート
代表理事 岸田徹 氏

がんと妊孕性

～25歳でがんになって～

僕は、25歳でがんを告知されました。がんの名前は、胎児性がんという希少がん。抗がん剤治療3ヶ月と手術2回、再発での手術1回を経て、今はおかげさまで元気に過ごしています。妊孕性については、妊孕性の温存（精子凍結）を抗がん剤が始まる前に実施、その後の手術で、性機能に障害を負ってしまったため、僕は妊孕性温存しておいて良かったと思っています。この度は、当時の経験などを振り返りながらお伝えしたいと思います。

千葉県生殖医療 クリニックにおける 妊孕性温存治療の 現状



亀田IVFクリニック幕張
院長 川井清考 氏

がん治療の前に将来の妊娠の可能性を残すための治療法についてご紹介し、実際に治療を受けられた方の状況もお届けします。がん向き合い将来の妊娠を考えたい方、がん治療が終わり妊娠に向かう方の不安に寄り添いながら、疑問に答え、希望を持てる選択肢と一緒に考えていく内容です。妊娠や出産について考えるきっかけに、ぜひご参加ください。特別な治療ではなく、標準的に提供できる治療になってきています。



亀田メディカルセンター
臨床心理士 奈良和子 氏

妊孕性 温存療法における 意思決定支援

妊孕性温存をどうするかは決定は、がん告知から間もない時期にしなければならず、精神的負担が大きいといわれています。妊孕性温存について考える時の患者さんの心理状態や医療スタッフが行う意思決定支援についてお話させていただきます。



千葉大学医学部附属病院
看護部 不妊症看護認定看護師
吉野有希子 氏

千葉県がん・ 生殖医療相談支援 センターの紹介

千葉県がん・生殖医療相談支援センターでは、将来子どもを持つことを望むすべての小児・AYA世代のがん患者さんが、妊孕性温存療法について検討できる機会を提供できるよう、多方面にわたり支援しております。これまでの活動実績に加え、具体的なセンターの活用方法についてもお伝えいたします。

第2部



国立国際医療研究センター病院
乳腺・腫瘍内科診療科長 清水千佳子 氏

AYA世代のがん

～ネットワークで支えるサバイバーシップ～

AYA世代でがんと診断されることは、妊孕性の問題も含め患者さんの生き方に大きな影響を与えます。限られたリソースを活用して、どのようなシステムであれば患者さんおひとりおひとりのニーズに対応できるか、皆様と考える機会としたいと思います。



千葉大学医学部附属病院
産婦人科学 齋藤佳子 氏

がん治療後の生殖医療

がん患者さんの妊娠・出産、妊孕能に関わる医療では、がん治療と生殖医療の連携が非常に重要です。がん治療後の患者さんが妊娠を希望された時に、どのように温存後生殖補助医療や不妊治療をすすめていくかをお話し、医療者間で共有すべき情報や、どのような支援が可能かを考えていきます。

千葉県 健康づくり 支援課

千葉県小児・AYA世代のがん患者等の 妊孕性温存療法研究促進事業について

千葉県では、将来、子どもを産み育てることを望む小児・AYA世代のがん患者さん等が希望を持ってがん治療等に取り組めるように、将来子どもを授かる可能性を温存するための妊孕性温存療法及び温存後生殖補助医療に要する費用の一部助成を行っています。事業の概要や助成実績についてお伝えします。

※第1部、第2部それぞれに質疑応答の時間がございます